

令和6年度ふるさとのツバメ総調査結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

私たちのふるさとの環境を見つめ、自然を愛護する心を育み、生き物への関心を高める機会となることをねらいとして昭和47年から実施している。

(2) 調査時期

愛鳥週間の令和6年5月10日(金)～16日(木)

※愛鳥週間は毎年5月10日～16日

(3) 調査参加者

県内の公立小学校等(小学校及び小中一貫校) 151校の6年生を中心とする児童8,057人(令和5年比 13.3%減)

※能登半島地震の影響により、能登地域の小学校を中心に一部の学校で調査中止

2 調査結果概要

(1) 成鳥確認数 5,632羽(対令和5年比 718羽減、△11.3%)

→成鳥確認数：調査時に児童が巣の付近や、電線などに止まっているツバメを目視確認できた数。(飛んでいるツバメは数えない。)

(2) 使用中の巣の数 5,105個(対令和5年比 973個減、△16.0%)

(3) ふるさとのツバメ総調査検討委員会による考察

令和6年は、能登半島地震の影響等により、能登地域を中心に一部の学校で調査を中止したため、能登地域の調査結果が極端に低い数値となった。そこで、調査を中止した小学校を除いて比較すると、成鳥確認数は令和5年より569羽増加(12.3%増)、巣の数は令和5年より148個増加(3.2%増)となった。令和5年との比較を純粹にはできないが、天候がおおむね良好で、平年並みだった中で、能登地域以外での繁殖状況(繁殖密度)はおおむね例年並みであったと推察できる。

(4) 調査参加者からの感想

「地域の人がツバメの巣を作ることに對し、歓迎してくれている人が多くいて、うれしい気持ちになった。」

「自然の大切さをあらためて感じたので、大事にしようと思った。」

など、児童が調査実施後、わかったこと、自ら考えたこと等が感想としてたくさん寄せられ、ふるさとの環境を考えるきっかけになっている。

